

同代は越前大野郡石徹白であり、長嶺から石徹白を経て別山に登るのである。

ミノマクリゴエ 葦捲越 ↓ヒロギョエ 廣木越。

ミノムロ 美濃室 白山に在つて、古くは別山室のことを美濃室と稱した。後世では越前名蹟考に『美濃室といふは、越前室より辰巳の方に當り、三町程隔てたり。是は美濃長瀧寺の僧參籠の室なり。』とあつて、別山室と別である。今凡べて廢絶した。

ミノワジガタ 葦輪地方 能美郡粟津郷に屬する島の一部であるが、大聖寺藩では一村として取扱うてゐた。單に葦輪ともいひ、又箕輪と書いたものもある。この村は、前田利常が穀盆子を植ゑしめ、番人に葦輪某を置いたに起るといはれる。明治以降また獨立部落とし、葦輪地方と稱する。

ミノワチカヨシ 葦輪近能 通稱昌林・徳兵衛 徳平。初め御居間方坊主であつたが、後御歩となり、寶曆二年新知百三十石を受けて組外に列し、南御土藏奉行に進み、七年淨珠院附御用人、十三年御近習御用に任じ、安永中七十石を加へて御馬廻に班し、天明三年百石を増し大小將となり、五年五十石を増し、七年致仕して昌久と稱し、隠居料十五人扶持を受けた。

ミノワトクエモン 葦輪徳右衛門 初め兵助。徳兵衛近能の子。明和八年新番となり、前田重教の御近習に任じたが、天明元年三月十日御納戸の衣服を盗みたること露顯して御預となり、四月廿七日公事場に於いて刎首。子藤五郎(六歳)亦父の罪に座して殺害せられた。

ミノワヤマ 三輪山 石川郡倉谷の部落から西南に當る山。ミノワ山ともミワ山ともいふ。一名冠嶽。高さ一〇六九米。地質第三紀層。

ミハテヌチリ 見果ぬちり 一册。金澤の俳人春曉齋紫石の著で、その自序がある。京勝田屋善助板で、年紀を明らかにせぬが、文化十年であらうといふ。紫石は挿花家でもあつたので、花の塵塚を築き、之が鑑として埋瘞する爲請ひ得た諸家の句などを載せる。

ミハナシヤマ 見放山 白山の中、能美郡尾添の村から西南に在る。兩山相對し、高きを大見放、低きを小見放と名づける。

ミビキ 三引^{ニヒ} 鹿島郡三引保に屬する部落。

ミビキガハ 三引川 鹿島郡三引領赤藏谷内より出で、同領の海に入る。流程二軒餘。

ミビキホ 三引保 鹿島郡に在つた。承久三年注進の能登國田數目録に、『三引保、貳町、承久年中檢注田定』とある。後世また三引保がある。

ミビキホ 三引保 鹿島郡に屬し、藩政時代では深見・白濱・三引の三ヶ村を含んで居た。ミビキヨハチロウ 三引與八郎 年不詳六月七日附温井兵庫助續宗・三宅筑前守綱廣・神保宗左衛門綱誠の感狀に、三引與八郎宛所のものがある。天文末年のものらしく、その子孫は長氏に臣事して居た。

ミフネザキ 御舟崎 珠洲郡の内浦最南端で、小木の南に在る。城崎と相對して、十九艘の口を擁する。

ミフネジンジャ 三船神社 珠洲郡小木に在つて、今御船神社に作る。式内等舊社記に、

『三船神社。木郎郷小木村鎮座。祭神猿田彦神。舊傳云。往昔海邊三船山鎮座。故稱三船權現。』と見え、能登名跡志には、『氏神三崎權現は上野に在り。よき社也。近年此宮普請する時、古通用の牛の舌といふ金子を掘出したることあり。此所昔寺地にて、坊の上・坊の池拵というてあり。昔の社地は三船といつて風景の磯山なり。沖よりは大船の如く見ゆる山にて、御船の端といつて、海に出る崎に在り。誠に船形の松山なり。佳景至極也。一山踏む所鳴つて、下は窺也。船と思ふ所に穴あり。旅の修行者此所に入りしに、内に宮殿樓閣ありしといへり。誠に仙境の由。』と記する。

ミフネヤマ 三船山 ↓ミフネジンジャ 三船神社。

ミマガハ 御馬河 日本靈異記に、越前國加賀郡に居た浮浪の長が、神設景雲三年三月廿七日その郡の部内御馬河の里に於いて、小野朝臣庭麿といふ優婆塞の行者に遇うた物語が書いてある。御馬河の里は後の石川郡三萬郷であらう。御馬河は延享三年の法令にみまんどろ川と記され、關山私記に載せた寶曆・明和の頃の日記には見滿川とし、三州奇談には三滿堂川と書き、今は二萬堂川といつてゐる。伏見川の上流である。

ミマゴウ 三馬郷 石川郡の古郷名で、和名抄に『石川郡三馬、美萬』とある。

ミマジンジャ 御馬神社 石川郡久安に鎮座する。もと三馬堂とも稱へて、三馬郷の總社であるといふ。式内等舊社記に、『御馬神社。式内一座。御馬郷久安村鎮座。或云祭神大若子命。今稱三馬堂稻荷。或誤云三馬

堂。』とある。同郡馬替に在る馬替社をそれだとする説もあるが、非であらう。

ミマナヒコジンジャ 美麻奈比古神社 今鳳至郡穴水の川島に在つて、美麻奈比古神・美麻奈比咩神等を祀る。この社號は延喜式神名帳所載のものであるが、大日本地名辭書に、『延喜式鳳至郡美麻奈比古神社美麻奈比咩神社は、今穴水川島村に在り。此地は古の能登郡なれば疑ふべし』として、穴水のそれが式内社ではないと斷じてゐる。但し川島にも美麻奈比咩の社號はない。又式内等舊社記にも式的美麻奈比古神社・美麻奈比咩神社共に所在が知れぬとしてゐる。能登誌には岩車村の日吉社と奈古司社を以て之に擬してゐるが、是も據がない。

ミマナヒメジンジャ 美麻奈比咩神社 ↓ミマナヒコジンジャ 美麻奈比古神社。

ミマンドウガハ 三滿堂川 ↓ミマガハ 御馬河。

ミマンドウバシ 三滿堂橋 石川郡西泉・久安・横川の領境、みまん堂川に架けた橋で、今は二萬堂橋といふ。

ミミキヤマ 耳聞山 江沼郡大聖寺の小名で、耳聞堂といふ敷地天神末社の一つがあつた。敷地天神社記に、居入神事に神主がここに參籠して、女神の御裝束又は男神の御裝束と諸神の語り給ふを聞いて、その御裝束を御舟に入れて奉り、又この堂に籠りて聞けば、夜一夜神遊があつて御舟に琴の音がするとある。又一説に、耳聞山の石籠中に耳を入れて聞けば、人の囁く如き聲がするのによつて、毎年除夜に翌年の豊凶を占うたといふ。